

飼料用稲生産拡大の取組支援

那須農業振興事務所経営普及部

【キーワード：飼料用稲 コントラクター 飼料自給率向上 耕畜連携】

成果の要約

- ・コントラクターが設立され、飼料用稲の収穫作業受託・流通の円滑化が図られた。
- ・飼料用稲の作付と利用を推進した結果、作付面積が91.7haまで増加した。
- ・耕種農家と畜産農家で構成される飼料用稲研究会が設立され、耕畜連携の強化が図られた。

1 活動対象

対象名：飼料用稲栽培農家、稲発酵粗飼料用稲(稲WCS)利用農家、稲WCS収穫調製集団
対象の概要：飼料用稲栽培農家 66 戸、稲WCS利用農家 55 戸、稲WCS収穫調製集団コントラクター(株)「那須の農」、専用収穫機械導入農家 1 戸

2 取組の背景・ねらい

那須地域は本州以南最大の酪農地帯であり、また、大田原市は県内有数の水田地帯です。畜産農家は飼料自給率向上を目指し、飼料生産に積極的に取り組んでいますが、規模拡大等により飼料生産に費やす労働力に限界があるため、作業の外部位が望まれています。また、耕種農家は大豆等の連作障害や転作強化の中で、水田の状態で栽培できる飼料用稲に注目しています。そこで飼料用稲生産拡大を図るため、耕畜連携による取組を推進しました。

3 活動の経過

(1) コントラクター設立と運営支援

平成 18 年度に関係機関・団体、管内の耕種農家と酪農家を構成員とする「コントラクター設立発起人協議会」を立ち上げ、組織のあり方の話し合い、専用収穫機械の実演、稲WCSの発酵品質検討会等をおし、コントラクター設立を支援しました。

平成 18 年度から 3 か年間、コントラクター組織育成支援事業(県単)を、平成 21 年からは畜産振興事業を活用し運営支援を行いました。

(2) 耕種農家への作付推進

平成 18 年度より 4 か年間、えさづくり戦略的拡大推進事業を活用し、発酵鶏ふんの活用や鉄コーティング種子の湛水直播栽培等の飼料用稲の省力・低コスト栽培展示ほを設置し、耕種農家への作付推進を図りました。また、飼料用稲栽培技術の普及を図るため、耕種農家を対象とした飼料用稲栽培講習会や栽培技術資料の配付を行いました。

(3) 畜産農家への利用推進

畜産農家が給与している稲WCSの品質調査や給与農家でのバーンミーティング(現地検討会)を開催し、稲WCSの利用を推進しました。また、平成 21 年度は稲WCS給与の展示ほを設置し、肥育牛(交雑種)の増体や肉質へ与える影響を調査しました。



写真1 稲WCS発酵品質現地検討



写真2 飼料用稲栽培展示ほ場現地検討会

(4) 耕畜連携の推進

飼料用稲の作付が拡大する中で、耕種農家と畜産農家との情報交換や栽培・利用技術向上を図る場が求められていました。このため、意欲ある耕種農家や畜産農家を中心として飼料用稲栽培者と給与者で構成される耕畜連携組織の設立を支援しました。

4 活動の成果

(1) コントラクター「那須の農」の設立

平成19年3月にコントラクター「那須の農」が設立されました。平成20年度には国庫事業で飼料用稲専用収穫機とラッピングマシン2台を導入して機械体系を確立し、平成21年度には汎用型収穫機の貸付業務を実施する酪農協と連携した作業体制が確立しました。

管内にはこの他1台の専用収穫機が導入され、合計3台の専用収穫機が稼働しています。



写真3 汎用型飼料用稲収穫機での収穫風景

(2) 栽培面積の増加

飼料用稲の栽培面積と戸数は、コントラクターの取組が始まった平成18年度から年々増加しており、平成21年度には91.7ha、66戸になりました。

表1 那須管内飼料用稲栽培面積一覧

市町	H17		H18		H19		H20		H21	
	面積(ha)	戸数(戸)	面積(ha)	戸数(戸)	面積(ha)	戸数(戸)	面積(ha)	戸数(戸)	面積(ha)	戸数(戸)
大田原市	1.9	2	6.0	4	11.2	17	34.5	21	49.7	29
那須塩原市	0.2	1	3.6	6	1.7	3	8.6	9	13.0	15
那須町	0.0	0	0.6	1	5.6	4	23.7	17	29.0	22
管内計	2.1	3	10.2	11	18.5	24	66.8	47	91.7	66
うち 那須の農	-	-	3.5	2	6.0	6	43.9	25	65.0	32

(3) 利用農家の増加

飼料用稲作付面積が急激に増加した大きな要因にはコントラクターの設立がありますが、水稻複合経営の畜産農家での自家利用も増えており、稲WCSが水田を活用した有効な飼料作物であることが認識されるようになりました。

表2 那須管内稲WCS利用農家戸数の推移

H17	H18	H19	H20	H21
3	13	29	39	55

(4) 那須地域飼料用稲栽培・利用研究会の設立

平成20年7月に、飼料用稲栽培者と利用者が主体となった「那須地域飼料用稲栽培・利用研究会」が設立されました。研究会員は耕種農家16名、酪農専業農家12名、水稻複合経営の畜産農家16名、その他関係機関等5名の合計49名で構成されており、勉強会や現地検討会をとおり、栽培者と利用者との緊密な情報交換が図られるようになりました。

5 今後の課題と方向

(1) 適期収穫の推進

適期収穫を推進し、高品質稲WCSを確保するとともに収穫機の稼働率を高めるためには、品種を組み合わせることで収穫期間を長期に確保する栽培体系を確立する必要があります。そのために、那須地域に適した飼料用稲の品種を選定するとともに、播種・移植時期を検討していきます。

(2) 低コスト栽培技術と良質なサイレージ調製技術の推進

今後、稲WCSの利用を拡大するためには、輸入粗飼料に劣らない品質かつ安価な稲WCSを安定供給することが大切です。そのための高品質・低コスト栽培技術を普及定着させるとともに、耕畜連携による相互理解を推進し、飼料用稲の生産拡大を図ります。